

# くらしの中のゴミ減らし

## 買い物をする時のひと工夫

スーパー、百貨店などは私たちが生活する上で必ず足を運ぶ場所です。しかし、そのたびに包装紙、パッケージ、紙袋などがみるみるたまっていきます。自分で袋やカゴを持つていけば過剰な包装を避けることができます。これからは、そんな買い物スタイルが素敵に見える時代ですね。



## 業者サイドの取り組み

最近では、販売する業者の方でも、パックの回収などゴミの減量に配慮しているところもあるようですが、地元のスーパードでは、まだこういった取り組みはなされていないようです。まず、私たち消費者が意識を変えていくことが大切です。

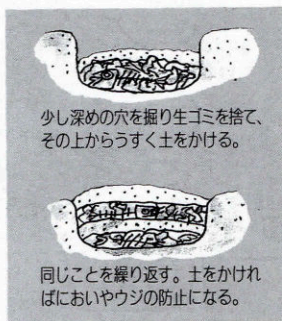
## 台所でのひと工夫

台所から出る生ゴミは水分が七五〇〜八五〇と特に高いため、重くて収集費用がかさむだけでなく、処理する際多くの燃料が必要となるため処理費もかさみ、処理量の低下につながります。この水分をいかにカットするかがポイントです。

残飯や野菜くずを入れる三角コーナー用のゴミ袋を利用し、捨てる前に袋ごとしぼれば、かなりの水分を切ることができます。また、生ゴミを入れる容器を水がかからないところへ置く工夫も大切です。

## コンポスターの活用

庭にちょっとしたスペースがあれば、生ゴミ処理場に使えます。生ゴミは土壌の還元力で土へもどっていきます。



また、コンポスターなどの便利な堆肥製造器を使えば、一〜三ヶ月で生ゴミを堆肥にできます。これを家庭菜園にまけば、これぞ自然のリサイクルですね。

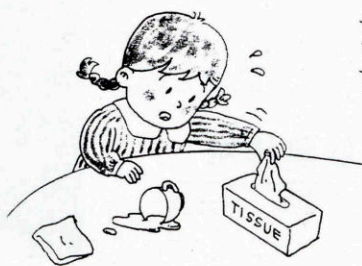


## 自家焼却のすすめ

自宅にゴミ焼却が設置できると家庭では、できるだけで焼却してしまえます。

## 室内でのひと工夫

ティッシュよりも雑巾を！  
食卓に水や食品をこぼした時は、ついティッシュペーパーなどで拭きたくなります。そんな時、何回でも使える雑巾を使えば、捨てるゴミの量を減らせます。



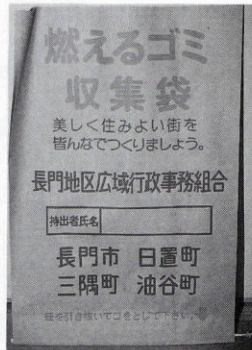
## ゴミの出し方のポイント

### 混ぜればゴミ、分ければ資源（分別収集）

燃却炉に空缶や空ビンなどの燃えないゴミが入れば、炉内を痛めるだけでなく、再資源化はできず、灰といっしょに埋立をせざるを得ません。「燃えるゴミ」と「燃えないゴミ」をきちんと分けることによって、ゴミ処理の効率化や埋立地の延命化を図ることができます。

## 不法投棄は絶対だめ

私たちは、豊かな美しい自然と景観をもつこのまちが好きです。だから、ゴミを不法に投棄して、台無しにするのは絶対にやめましょう。町では、年三回粗大ゴミの収集を実施しています。大きなゴミは、その時にまとめて出すようにしましょう。



町指定のゴミ袋  
町広報 ゆや 5.8.1